

本当の魅力を伝えるための秘策

「内なる広報・見えざる壁の破壊」～立山山麓の地域融合～



宇波 春咲(うなみ かずさ)
富山県立氷見高等学校 1年

本当の魅力を伝えるための秘策

「内なる広報・見えざる壁の破壊」～立山山麓の地域融合～

宇波 春咲



活動概要

活動の内容

立山山麓の自然と歴史、地域再生にける熱い人々について学び、この地域の魅力を多くの人に広めたいと考えた。特に「地域融合」「歴史と食の融合」に焦点を当て、郷土・創作料理店「まんだら食堂」でのイベントを実践した。

イベント名:まんだら食堂感謝祭

事前活動:広報…SNS・チラシ配布・地元小学校訪問、「血の池ガールズ」による広報(インフルエンサー)にマネージャー就任・広報活動補助依頼)

イベント立案…新メニュー提供・クラフトブース

イベント実践:店先での宣伝・フロア案内・クラフトブース運営・接客・アンケート

活動の特徴(新規性・発展性)

①「歴史と食の融合」提供済メニューのバリエーションを増やし、立山信仰の要素をさらに取り入れた新メニューを開発した。

②「血の池ガールズ結成」チラシ配布・SNSでの広報より印象的な「立山山麓地域応援ユニット」を結成し、広報活動やイベントでの接客を行った。

③「地域融合」各地域が共同で活動することで、よりよく魅力を発信する。立山山麓の2地区の融合 → 立山山麓と他地域の融合 → 富山県全体の融合へつなげる

活動の成果

①「最多来客数達成」開店から閉店まで途切れることなくお客さんが来店した。SNS、チラシ、店頭での広報活動により新規来店客が5割を超えた。

②「立山山麓の芦峯寺地区と小見地区の融合が進む」=「立山山麓の魅力を内から外へ発信できる素地が整い始めた」小見小での宣伝、小見地区のインフルエンサーによる広報活動の結果、小見地区住民が、まんだら食堂(芦峯寺地区)を認知し、イベント当日多くの小見地区住民が訪れた。

課題の設定と意図

オリエンテーション合宿では様々な出会いがあった。芦峯寺地区では、伝統文化を継承する人、伝統を進化させようとする人、小見地区では、仕事を辞めても地域再生にける方やそれを支える方々、国外、県外より移住し地区のよさを生かして働く職人。環境も人も全てが魅力ある立山山麓だが、私たち自身も、家族や友人の多くも、そんなよい所だと知らなかったと感じた。立山山麓の魅力を知らないのは勿体無い、もっと立山山麓を盛り上げ、県内外に発信したいと強く感じた。同時に強く感じたことは、「両地区住民は、それぞれ地域再生のために頑張っているが、つながりが少ないのではないか」「両地区の住民が、互いの地区のよさを知らないのではないか」という点だ。両地区は市町村が違い、常願寺川を挟んだ対岸に位置するが、仲が悪いわけではなく、それぞれが魅力ある地域だけに、自分の地区のよさは分かるが、相手の地区のよさに気付かれないのではないかと考えた。そこで、両地区住民が相手の地区のよさをすることで立山山麓全体の本当の魅力に気付くのではないかと、この地域内での融合こそが、立山山麓の魅力を伝えるための第一歩ではないかと考え、課題を設定した。

課題解決のための仮説と計画

県内外に広く魅力を伝える前に、まずは住民が地区の本当の魅力に気付く必要があると考え、私たちは小見地区住民が芦峯寺地区のよさを、芦峯寺地区住民が小見地区のよさを感じることができるようになりたいと願い、以下の仮説を立てた。

「住民が互いの地区のよさを知り、共同して活動することで、地域全体の再生力が高まり、地域住民が立山山麓の本当の魅力を伝えることができるようになる」

この仮説を検証するために、「内なる広報」と「見えざる壁の破壊」というキーワードをもとに、まずは「小見地区の人が芦峯寺地区のよさを再発見すること」に焦点を当て、以下の計画を立て、実践した。

①小見小学校の学習発表会・バザーでの広報活動【小見小学校と連携】

富山県では「校区」ではなく「校下」という言葉が使用されてきた。城下町ならぬ「校下町」であり、学校が中心に地域が形成されてきた。学習発表会は、小見地区住民が楽しみにしている行事の一つである。この機会において、イベント開催の告知を行い、芦峯寺地区を代表するまんだら食堂について知ってもらう。

→外部に住む私たち高校生による地域と地域をつなぐための内なる広報活動

②小見地区のインフルエンサーによる芦峯寺地区の魅力発信【あわすのスキー場支配人と連携】あわすのスキー場(小見地区)の支配人に「血の池ガールズ」のマネージャーに就任してもらい、まんだら食堂(芦峯寺地区)のイベントや「血の池ガールズ」の宣伝をしてもらう。

→インフルエンサーによる見えざる地域の壁の破壊

さらに、まんだら食堂の魅力が高まるよう、イベントに多くの人に来るように以下の計画を立てた。

③イベント「まんだら食堂感謝祭」の開催【まんだら食堂との連携】

新メニューの共同開発・地域応援ユニットによる宣伝や接客・SDGsクラフトブースの設置等

④広報活動

自身のSNSによる発信・チラシの作成と配布(居住地区や学校)



活動で工夫できたこと

私たちが行った実践活動は、人との交流が多い活動であった。そのため、少しでも立山山麓で過ごした時間が良い思い出となり、「また来たい！」と思ってもらえるように、人と関わる際は「丁寧に明るく」という基本のことを常に意識していた。「丁寧に明るく」なんて当たり前のことのように思えるが、この当たり前の態度や意識はすごく大切なことである。これはオリエンテーション合宿の一部、「あわすのスキー場」でのスタッフ体験で学んだことと繋がる。スタッフ体験では、積極的な発言や行動が必要だったので、私は最初、なかなか動けずに困っていた。やっとのことで話しかけた立山山麓の方々は、すごく親切な方々であった。「丁寧に明るく」を身につけていた。その方々は、色々な人と会話を楽しみ、楽しませ、私もその場の空気に安心感を抱いた記憶がある。それと同時に、この空気感も立山山麓の魅力の一つなのではないのかと感じた。私は、その温かい空気感は立山山麓に来る人しか見つけられない、特別な魅力だと考えた。この魅力を今回の実践活動に来てくださる人にも見つけて欲しい。そう思い、スタッフ体験で私に魅力を見つけてくれた親切な方々を見習い、「丁寧に明るく」を意識して実践活動に挑んだ。当日は天気も良く、紅葉も綺麗な日であった。「立山山麓の人々が、自分の住む地域の魅力に気づいていないのではないか。」という考えから、当初は地域の方々を対象としたイベントとして企画していたが、市外や県外からのお客さんも多く来てくださった。イベントの来場者は、来ないと分からない立山山麓の隠れた魅力に気づいてくれただろう。「まんだら食堂」で食べたおいしい昼食の思い出と共に、この立山山麓という温かい雰囲気できつろげる場所があることが多くの人の記憶に残ったことを願う。



活動で得た学び・気づき

オリエンテーション合宿では、「まず地元の人が自らが住む地域の魅力を知ること」、「それを知り合いに教えること」、「その知り合いがまた知り合いに教えること」、こうして情報が広がって、多くの人が地域の魅力を知っていくことができれば、その地域の活性化に繋がると考えた。また、視覚や聴覚で魅力を感じるよりも味覚で感じた方が記憶に残りやすいのではないかと、この考えもあり、今回の「まんだら食堂感謝祭」というイベントの開催に繋がった。このイベントの開催にあたって、私はチラシの制作や学校でチラシ配りを行った。「血の池ガールズ」「血の池ラーメン」「地獄スイーツ」などインパクトの強い単語がたくさん記載されたチラシには、多くの人が注目していた。また、当日は店先での呼び込みにも力を入れた結果、たまたま通りかかった車の方々にもたくさん来店して頂いた。「血の池ガールズ」と大きく記載されたTシャツを着た私たちは、多くの人に注目された。このようなことから、珍しい物や変わったものを初めに提示することで多くの人に興味を持ってもらえるのではないかと考えた。チラシ配りの際には、「あまり美味しそうには感じない商品名だ」と少し悲しくなる言葉も頂いたが、歴史と食を融合したこのアピールの仕方が今の立山山麓にとっての正解なのだと私は考える。何をアピールするにせよ、まずは相手に興味、関心を持ってもらうことが必要であると学んだからだ。

もう一つ学んだことがある。当日、イベントに来てくださった人にアンケートをお願いした。49人分のアンケートが集まり、結果を確認すると、「魅力に気づくことが出来た」や「もっと知りたいと思った」に対しては、ほとんどの人が「はい」と答えた。しかし、「それらを発信していきたいと思った」に対しては「いいえ」または無回答が所々見られた。憶測ではあるが、その理由は「遠いから」というのが多数なのではないかと考えた。私は、立山山麓からは遠い氷見市に住んでいるので、何度も通うことは難しい。行かないとわからない魅力には是非とも気づいてほしいのだが、行かなくても気づける魅力も見つけていく必要がある。「遠い」というどうしようもない理由に対して、どのように対応すれば良いのかも考えていくべきなのではないかと、考える良い機会となった。「まずは興味を持ってもらうこと」「『遠く通えない』というお客さんにどう対応していくか」など、これからも探究する価値がありそうだと考える。

今後の展望・新たな取組み

まんだら食堂で開催したイベントでは、何人かのお客さんに「血の池ガールズはまた活動してくれるのか」「血の池ガールズのTシャツは販売されているのか」など、声をかけて頂いた。「血の池ガールズ」としての活動も、「まんだら食堂感謝祭」というイベントも、大変好評だったように感じる。今回、私たちがした活動は、簡単に言えば、まず自分たちで立山山麓の魅力を見つけ、それをどのようにすれば多くの人にも見つけてもらえるか考えて仕掛けを作り(イベントを提案)、実際に見つけてもらう機会を作る(イベント開催)、というものだった。来てくれるお客さんに宝探しをしてもらっているようで、私自身イベントの企画も、宣伝も、当日の呼び込みや接客も、楽しむことができた。都会には色々なものがある人が溢れ返っている。今までは、そんな人が集まる場所ばかりに目がいていたが、今回の立山山麓のようなまだ発展する余地がある場所に目を向けてみれば、まだ誰も見つけていない宝探しを見つけ出すことができるかもしれない。私はこれから、場所や物、人の魅力を見つけ出すことのできるような能力を身につけたい。そして、それを他の多くの人にも知ってもらうためにはどうすれば良いかを積極的に考え行動できるような人間になれば理想的である。オリエンテーション合宿でイベントの協力者でもある松井さんからお話を聞いた。今でも鮮明に記憶に残っている話だ。松井さんが「あわすのスキー場」を守るために実践した活動は決して1人ではできないものだったそう。たくさんの人に協力してもらい、松井さんは今も「あわすのスキー場」を守り続けている。松井さんはすごく行動力のある人だと思った。そんな松井さんでさえ、多くの人々に支えられているのだ。考えを行動に移すことは、話だけ聞いていると簡単なことのように聞こえそうだが、もちろん簡単ではない。今回の実践活動を通して強く感じさせられた。大きな目標であればあるほど、誰かと協力することは必要になってくる。大きな目標を成し遂げるその日のために、日々、人との関わりを大切にしていきたいと考える。立山山麓からつながる次の地域の探究を行う機会に、より楽しい宝探しを仕掛けるために、人と協力すること、人を楽しませること、人に見つけてもらうこと、そして自分自身で楽しむこと、今回の実践活動で学んだことを活かせるような人生の過ごし方をしていく。そして、様々な地区の心と心の融合を図りたい。立山山麓の魅力を私自身が見つけることができ、多くの人に見つけてもらえることができ、本当に良かったと感じている。

1. 地域探究アワードエントリー情報

エントリー希望	有	エントリー単位	グループ	ブロック	中部
グループメンバー	氏名①	宇波 春咲		氏名③	高崎 心優
	氏名②	道淵 由真		氏名④	白石 心菜

2. オリエンテーション合宿及び実践活動の基本情報

合宿実施先	国立立山青少年自然の家		修了日	2022/08/01	カリキュラムのタイプ	A
フィールドワークの内容	立山山麓の飲食店である「まんだら食堂」さんで看板メニューの「血の池ラーメン」を頂いたり、「あわすのスキー場」さんでスタッフとして多くの方々と交流したりして、立山山麓の雰囲気や魅力を学んだ。					
実践活動期間	2022/09/15 ~ 2022/11/3					
活動のタイプ	新たな活動					
協力者	主な協力者			協力内容		
	所属	まんだら食堂		実践活動の準備など		
	氏名	佐伯 照代				
	所属	あわすのスキー場		血の池ガールズのマネージャーとしてのアドバイスなど		
	氏名	松井 一洋				
	所属					
氏名						
協力者総数	4名					

3. 実践活動の記録

(1)総活動日数 全8日

事前:準備・打合せ	06日	本番:メインの活動	01日	事後:ふりかえり・報告	01日
-----------	-----	-----------	-----	-------------	-----

(2)活動成果の発信等

媒体	方法	回数	概要・備考
新聞	取材された	1回	イベントの様子を紹介して頂いた。

(3)主な活動記録

活動日時	区分	活動場所	活動内容
09/30 ~ 09/30	①事前学習・打合せ等	電話	イベント開催の日程などを照代さんに相談。
10/03 ~ 10/03	①事前学習・打合せ等	メール	血の池ガールズのマネージャー就任のお願いと挨拶。
10/17 ~ 10/22	①事前学習・打合せ等	学校や自宅	イベントの予告のためのチラシの作成。
10/29 ~ 10/29	①事前学習・打合せ等	まんだら食堂や小見小学校	地元の人に魅力をもっと知ってもらうための活動、PRや、チラシ配りなど。
11/03 ~ 11/03	①事前学習・打合せ等	まんだら食堂	新メニューの販売、まんだら食堂で血の池ガールズとしてのお手伝いなど。

本当の魅力を伝えるための秘策

「内なる広報・見えざる壁の破壊」～立山山麓の地域融合～



道淵 由真 (みちぶち ゆま)
富山県立氷見高等学校 1年

本当の魅力を伝えるための秘策

「内なる広報・見えざる壁の破壊」～立山山麓の地域融合～

道淵 由真



活動概要

活動の内容

立山山麓の自然と歴史、地域再生にかける熱い人々について学び、この地域の魅力を多くの人に広めたいと考えた。特に「地域融合」、「歴史と食の融合」に焦点を当て、郷土料理店「まんだら食堂」でのイベントを実践した。

イベント名:まんだら食堂感謝祭

事前活動:広報SNS・チラシ配布・小学校訪問、「血の池ガールズ」による広報(インフルエンサーにマネージャー就任・広報活動補助依頼)

イベント立案…新メニュー提供・クラフトブース

イベント実践:店先での宣伝・フロア案内・クラフトブース運営・接客・アンケート

活動の特徴(新規性・発展性)

①「歴史と食の融合」提供済メニューの種類を増やし、立山信仰の要素をさらに取り入れた新メニューを開発した。

②「血の池ガールズ結成」チラシ配布・SNSでの広報より印象的な「立山山麓地域応援ユニット」を結成し、広報活動やイベントでの接客を行った。

③「地域融合」各地域が共同で活動することで、よりよく魅力を発信する。

立山山麓の2地区の融合 → 立山山麓と他地域の融合 → 富山県全体の融合へつなげる

活動の成果

①「最多来客数達成」開店から閉店まで途切れることなくお客さんが来店した。SNS、チラシ、店頭での広報活動により、新規来店客が5割を超えた。

②「立山山麓の芦峯寺地区と小見地区の融合が進む」=「立山山麓の魅力を内から外へ発信できる素地が整い始めた」小見小での宣伝、小見地区のインフルエンサーによる広報活動の結果、小見地区住民が、まんだら食堂を認知し、イベント当日多くの小見地区住民が訪れた。

課題の設定と意図

オリエンテーション合宿では様々な出会いがあった。芦峯寺地区では、伝統文化を継承する人、伝統を進化させようとする人、小見地区では、仕事を辞めても地域再生にかける方やそれを支える方々、国外、県外より移住し地区のよさを生かして働く職人。環境も人も全てが魅力ある立山山麓だが、私たち自身も、家族や友人の多くも、そんなよい所だと知らなかったと感じた。立山山麓の魅力を知らないのは勿体無い、もっと立山山麓を盛り上げ、県内外に発信したいと強く感じた。同時に強く感じたことは、「両地区住民は、それぞれ地域再生のために頑張っているが、つながりが少ないのではないか」

「両地区の住民が、互いの地区のよさを知らないのではないか」

という点だ。両地区は市町村が違い、常願寺川を挟んだ対岸に位置するが、仲が悪いわけではなく、それぞれが魅力ある地域だけに、自分の地区のよさは分かるが、相手の地区のよさに気付かれないのではないかと考えた。そこで、両地区住民が相手の地区のよさをすることで立山山麓全体の本当の魅力に気付くのではないかと、この地域内での融合こそが、立山山麓の魅力を伝えるための第一歩ではないかと考え、課題を設定した。

課題解決のための仮説と計画

県内外に広く魅力を伝える前に、まずは住民が地区の本当の魅力に気付く必要があると考え、私たちは小見地区住民が芦峯寺地区のよさを、芦峯寺地区住民が小見地区のよさを感じることができるようにしたいと願い、以下の仮説を立てた。

「住民が互いの地区のよさを知り、共同して活動することで、地域全体の再生力が高まり、地域住民が立山山麓の本当の魅力を伝えることができるようになる」

この仮説を検証するために、「内なる広報」と「見えざる壁の破壊」というキーワードをもとに、まずは「小見地区の人が芦峯寺地区のよさを再発見すること」に焦点を当て、以下の計画を立て、実践した。

①小見小学校の学習発表会・バザーでの広報活動【小見小学校と連携】

富山県では「校区」ではなく「校下」という言葉が使用されてきた。城下町ならぬ「校下町」であり、学校が中心に地域が形成されてきた。学習発表会は、小見地区住民が楽しみにしている行事の一つである。この機会において、イベント開催の告知を行い、芦峯寺地区を代表するまんだら食堂について知ってもらう。

→ 外部に住む私たち高校生による地域と地域をつなぐための広報活動

②小見地区のインフルエンサーによる芦峯寺地区の魅力発信【あわすのスキー場支配人と連携】

あわすのスキー場の支配人に「血の池ガールズ」のマネージャーに就任してもらい、まんだら食堂(芦峯寺地区)のイベントや「血の池ガールズ」の宣伝をしてもらう。

→ インフルエンサーによる見えざる壁の破壊

さらに、まんだら食堂の魅力が高まるよう、イベントに多くの人々が来るように以下の計画を立てた。

③イベント「まんだら食堂感謝祭」の開催【まんだら食堂との連携】

新メニューの共同開発・地域応援ユニットによる宣伝や接客・SDGsクラフト

④広報活動【自分たちの力だけでできること】

SNSによる発信・チラシの作成と配布



活動で工夫できたこと

私は、多くの人の前で話すことが苦手だった。だから、オリエンテーション合宿で、あわすのスキー場のイベントのスタッフ体験をすることになり、私は焦った。「私に本当にできるかな」と。いざイベントが始まってみると、大きな声で「おいしいですよ～」と来場者に食べ物を勧めている自分に驚いた。イベントの終わり頃になると、「看板娘が販売します！」などと会場を盛り上げる言葉を出すこともできた。また、出店している方々に、地域再生のこつをインタビューすることもできた。オリエンテーション合宿では、多くの人の前で自分の伝えたいことを話す、初めて会った人にも積極的に話すという力を身に付けることができたと感じた。しかし、活動を振り返ると、緊張した顔をしながら、自分から一方的に伝えたのではないかも感じた。

そこで、「まんだら食堂」で行うイベントの際には、人との接し方を工夫しようと考え、相手の表情や様子を見ながら声をかけることにした。イベント当日、店先に入ってくるお客さんの目を見ながら、笑顔で「いらっしゃいませ」と声をかけ、イベントについて説明した。笑顔で声をかけたことで、お客さんは安心した表情で説明を聞き、そして、優しく返事をしてくださった。相手の気持ちを考えることで、初めて会った人とも会話が成立すると感じた。この経験を生かし、新メニュー「血の池ラーメン・おじやセット」を勧めたり、子供たちをクラフト体験コーナーに案内したり、アンケート記入の依頼をしたりなど、様々な役割に挑戦することができた。挑戦する中で、笑顔で接すること、相手の気持ちを考えることが大切だということを実感することができた。

感じたことや経験したことをもとに、よりよい方法を考え、実践することで、少し前まで私ができなかった「見知らぬ人に話しかけること」ができるようになっただけでなく、「相手と気持ちを通じ合わせること」が少しずつできるようになった。



活動で得た学び・気づき

オリエンテーション合宿では、たくさんの人生の達人たちの話を聞いて、立山山麓にはよいところだけではなく、問題も抱えていることを知った。伝統を守り続けること、過疎地域を新しく再生することなど、自分が普段暮らしている中では気付くことがない問題がたくさんあることを知った。私が住む高岡市にも同様の問題があるのだろう。私たち高校生が、その問題を知らずに普段生活しているのは少し怖いと思った。大人になり、いつか知るのではなく、地域の現状を知りながら、今から何かできることはないのか、と考えた。「高校生の私たちからできる地域再生方法もきっとある」、そう思って実施したのが「血の池ガールズ」だった。アイドルとまではいかないが、若さあふれる高校生の私たちが、インバウトのあるユニット名で宣伝すると、きっと宣伝効果が高いだろうと考えた。インフルエンサーの松井さんの力を借りながら宣伝した効果は大きく、イベント後に、まんだら食堂代表の佐伯照代さんが「スタッフが休み暇もないほど忙しかった。嬉しい悲鳴です。血の池ガールズのみなさん、本当にありがとう。」と語った。今までにない数のお客さんがまんだら食堂を訪れた。高校生の私たちにもできることがあるんだと、強く感じた瞬間だった。

「地域の活性化を！」「町をPRしよう！」と簡単に言っていたけれど、イベントを計画する中で、実際にやろうとするとなかなかうまくいかず、嫌になりそうになったこともあった。私たちは、氷見高校、国際大学付属高校の遠く離れた2校の生徒が集まりグループを作ったので、連絡調整することも、実際に会って全員の意思疎通をすることも難しかった。「もっと立山山麓を知ってほしい！」という思いを届けたかったが、たくさんの人に人々に呼びかけるのは大変だとも感じた。あきらめそうになったその時に、初心に戻って考えた。「立山山麓の魅力を伝えたい」「地元の人が悩んでいることを私たちが少しでもサポートできたら嬉しい」という考えが頭に浮かんできた。自分たちの思いがしっかり伝わるか心配しながら活動していたけれど、「1人でも2人でもよから活動に興味を持ってくれたらいいな」と思いながら活動するのはとても楽しかった。イベントに向けて活動を続ける中で、「自分たちの街の問題は自分たちで解決するのが一番だ」と考えるようになった。これについてよく考えると、「自分たちの街」というのは「立山山麓」、「自分たちで解決」とは「私たちで解決」という意味で、私はいつの間にか遠く離れた立山山麓も自分の街だと考えるようになっていた。私の中で、住んでいる高岡市と、イベントを行う立山山麓が融合したと感じた瞬間である。遠く離れた地域での活動が、自分の住む地域の再生のためにいつか役立つ、地域融合を拡大しながら、富山県全体で地域を盛り上げたいと感じた。

今後の展望・新たな取組み

「血の池ガールズ」として4人で取り組んだ立山山麓での活動は、微力ではあるが自分たちなりに成功したと感じた。しかし、私たちは立山山麓の魅力を全て知っているわけではない。まずは私たち自身が、もっと立山山麓について知り、それをよりよくPRする方法を改めて考えることが大切だと考える。そして、地域を盛り上げるためには、地域に住んでいる住民の力を集結させることが大切だと学んだ。地域の中をさらに融合させるためのイベントを企画し、住民の力をパワーアップさせることも大切だと感じた。

今回のイベントは「まんだら食堂」で行ったが、富山市や氷見市、私が住む高岡市、その他の地域でもっと立山山麓を知ってもらう必要があると感じた。それぞれの地区で行われるイベントに立山山麓ブースを設置したいと考えた。それらの活動を通して、富山県全体を融合させていきたい。そのための鍵となるのが「血の池ガールズ」の存在であると思う。私たち初期メンバーの4人で「血の池ガールズ」Tシャツを着て活動する機会も増やしたい。しかし、それよりも、インバウトあるネーミングからたくさんの人が関心をもってくれることを生かし、多くの人と会話をしてつながり、新メンバーを随時加入し、少しずつ、着実に、富山が大好きで、富山を守り続けたい高校生を増やしていきたい。今度は、松井さんに負けないようなインフルエンサーに私たち「血の池ガールズ」がなるのだ。私は通学している氷見高校の総合的な探求の時間に、氷見市名産の「氷見うどん」について研究をしている。氷見うどんは、手延べの滑らかさと手打ちのコシをあわせ持つ日本一のうどんだ。氷見うどんが持つよさを、「まんだら食堂」のメニューに生かし、新たなメニュー「日本一の地域融合メニュー」を開発することを、今後の活動の始まりとしたい。そして、高校生の身軽なフットワークを生かし、各地域のインフルエンサーとインフルエンサーをつなげる役割を果たし、富山県全体を盛り上げていきたい。

オリエンテーション合宿やまんだら食堂で実施した実践活動を通して学んだ「自分の意見を大勢の人の前で述べる、積極的に紹介する、話しかける」ことは、私がこのあとの人生を歩む中ですごく大切になってくると思う。人と人との関わりをもつ、コミュニケーションをとることは簡単そうだけど難しい。途中であきらめないことで大きな達成感を得ることも、今回の活動で学んだ。だから、この先の人生で、難しいことも達成できるよう、オリエンテーション合宿や、実践活動で学んだことを活かしながら努力したいと思う。また、自分が思ったことを人に伝えたり、説明したりして、コミュニケーション力を高め、もっとたくさんの人と関わり、明るい人生を過ごせるようにしたいと思う。

1. 地域探究アワードエントリー情報

エントリー希望	有	エントリー単位	グループ	ブロック	中部
グループメンバー	氏名①	白石 心菜		氏名③	宇波 春咲
	氏名②	高崎 心優		氏名④	道淵 由真

2. オリエンテーション合宿及び実践活動の基本情報

合宿実施先	国立立山青少年自然の家		修了日	2022/8/1	カリキュラムのタイプ	A
フィールドワークの内容	そば作り体験、ガラスの絵付け体験、郷土料理盛り付け体験、まんだら遊苑、立山博物館見学、あわすのスキー場イベント手伝い					
実践活動期間	2022/9/1 ~ 2022/11/30					
活動のタイプ	新たな活動					
協力者	主な協力者			協力内容		
	所属	富山市立小見小学校校長		小見小学校でのイベント宣伝補助		
	氏名	谷岡 一直				
	所属	あわすのスキー場		イベントの宣伝		
	氏名	松井 一洋				
	所属	まんだら食堂		イベントのメニュー考案、当日のメニュー作成		
氏名	佐伯 照代					
協力者総数	4名					

3. 実践活動の記録

(1)総活動日数 全8日

事前:準備・打合せ	6日	本番:メインの活動	1日	事後:ふりかえり・報告	1日
-----------	----	-----------	----	-------------	----

(2)活動成果の発信等

媒体	方法	回数	概要・備考
新聞	取材された	1回	まんだら食堂イベントについて、北日本新聞さんが取材中をしてくださった。

(3)主な活動記録

活動日時	区分	活動場所	活動内容
10/29 ~ 10/29	①事前学習・打合せ等	小見小学校、まんだら食堂	まんだら食堂イベントの宣伝新メニューの
11/1 ~ 11/1	①事前学習・打合せ等	氷見高校	作成した、イベントのチラシ配布(生徒玄関にて)
	①事前学習・打合せ等		松井さん(あわすのスキー場)のマネージャー就任
	①事前学習・打合せ等	まんだら食堂	イベント本番の新メニュー考案血の池おじやや天国ラーメンなど
11/3 ~ 11/3	②実践活動本番	まんだら食堂	まんだら食堂感謝祭実施SDGsのお重クラフト体験も実施

本当の魅力を伝えるための秘策

「内なる広報・見えざる壁の破壊」～立山山麓の地域融合～



高崎 心優 (タカサキ ミユウ)
富山国際大学附属高等学校 2年

本当の魅力を伝えるための秘策

「内なる広報・見えざる壁の破壊」～立山山麓の地域融合～

高崎 心優



活動概要

活動の内容

立山山麓の自然と歴史、地域再生にける熱い人々について学び、この地域の魅力を多くの人に広めたいと考えた。特に「地域融合」「歴史と食の融合」に焦点を当て、郷土・創作料理店「まんだら食堂」でイベントを実践した。

イベント名:まんだら食堂感謝祭

事前活動:広報...SNS・チラシ配布・地元小学校訪問

ユニット「血の池ガールズ」による広報(インフルエンサーにマネージャー就任・広報活動補助依頼)

イベント立案...新メニュー提供・クラフトブース

イベント実践:店先での宣伝・フロア案内・クラフトブース運営・接客・アンケート

活動の特徴(新規性・発展性)

1「歴史と食の融合」提供済メニューのバリエーションを増やし、立山信仰の要素をさらに取り入れた新メニューを開発した

2「血の池ガールズ結成」チラシ配布・SNSでの広報より印象的な「立山山麓地域応援ユニット」を結成し、広報活動やイベントで接客を行った

3「地域融合」各地域が共同で活動することで、よりよく魅力を発信する。

立山山麓の2地区の融合 → 立山山麓と他地域の融合 → ... → 富山県全体の融合へつなげる

活動の成果

1「最多来客数達成」開店から閉店まで途切れることなくお客さんが来店した。SNS、チラシ、店頭での広報活動により、新規来店客が5割を超えた。

2「立山山麓の芦峯寺地区と小見地区の融合が進む」=「立山山麓の魅力を内から外へ発信できる素地が整い始めた」小見小での宣伝、小見地区のインフルエンサーによる広報活動の結果、小見地区住民が、まんだら食堂(芦峯寺地区)を認知し、イベント当日多くの小見地区住民が訪れた。

課題の設定と意図

オリエンテーション合宿では様々な出会いがあった。芦峯寺地区では、伝統文化を継承する人、伝統を進化させようとする人、小見地区では、仕事を辞めても地域再生にける方やそれを支える方々、国外、県外より移住し地区のよさを生かして働く職人。環境も人も全てが魅力ある立山山麓だが、私たち自身も、家族や友人の多くも、そんなよい所だと知らなかったと感じた。立山山麓の魅力を知らないのは勿体無い、もっと立山山麓を盛り上げ、県内外に発信したいと強く感じた。同時に強く感じたことは、「両地区住民はそれぞれ地域再生のために頑張っているが、つながりが少ないのではないか」「両地区の住民が、互いの地区のよさを知らないのではないか」という点だ。両地区は市町村が違い、常願寺川を挟んだ対岸に位置するが、仲が悪いわけではなく、それぞれが魅力ある地域だけに、自分の地区のよさは分かるが、相手の地区のよさに気がつききれないのではないかと考えた。そこで、両地区住民が相手の地区のよさをすることで立山山麓全体の本当の魅力に気付くのではないかと、この地域内での融合こそが、立山山麓の魅力を伝えるための第一歩ではないかと考え、課題を設定した。

課題解決のための仮説と計画

県内外に広く魅力を伝える前に、まずは住民が地区の本当の魅力に気付く必要があると考え、私たちは小見地区住民が芦峯寺地区のよさを、芦峯寺地区住民が小見地区のよさを感じられるようにしたいと願い、以下の仮説を立てた。

「住民が互いの地区のよさを知り、共同して活動することで、地域全体の再生力が高まり、地域住民が立山山麓の本当の魅力を伝えることができるようになる」

この仮説を検証するために、「内なる広報」と「見えざる壁の破壊」というキーワードをもとに、まずは「小見地区の人が芦峯寺地区のよさを再発見すること」に焦点を当て、以下の計画を立て実践した。

①小見小学校の学習発表会・バザーでの広報活動【小見小学校と連携】

富山県では「校区」ではなく「校下」という言葉が使用されてきた。城下町ならぬ「校下町」であり、学校を中心に地域が形成されてきた。学習発表会は、小見地区住民が楽しみにしている行事の一つである。この機会において、イベント開催の告知を行い、芦峯寺地区を代表するまんだら食堂について知ってもらう。

→ 外部に住む私たち高校生による地域と地域をつなぐための内なる広報活動

②小見地区のインフルエンサーによる芦峯寺地区の魅力発信【あわすのスキー場支配人と連携】

あわすのスキー場(小見地区)の支配人に「血の池ガールズ」のマネージャーに就任してもらい、まんだら食堂(芦峯寺地区)のイベントや「血の池ガールズ」の宣伝をしてもらう。

→ インフルエンサーによる見えざる地域の壁の破壊

さらに、まんだら食堂の魅力が高まるよう、イベントに多くの人に来るように以下の計画を立てた。

③イベント「まんだら食堂感謝祭」の開催【まんだら食堂との連携】

新メニューの共同開発・地域応援ユニットによる宣伝や接客・SDGsクラフトブースの設置等

④広報活動【自分たちの力だけでできること】

自身のSNSによる発信・チラシの作成と配布(居住地区や学校)



活動で工夫できたこと

実践活動で工夫したことは大きく2つあります。

1つ目はイベントの内容です。立山山麓の良さを一番簡単に知ってもらう方法は「食」ではないか、と考え、「まんだら食堂」に協力をお願いしました。また、立山曼荼羅をアピールするため、地獄をテーマとしたメニューの開発や会場の装飾を行いました。お客さんの印象に残るような工夫ができたと思います。また、当日はイベントに来てくださったお客さんと積極的にコミュニケーションを図るようにしました。直接お客さんと会話することで、肌感覚で意見や感想を聞くことができ、その後の活動に活かすことができたと思います。

2つ目は、宣伝の方法です。まずはたくさんの人にイベントについて知ってもらいたいと考え、宣伝活動には特に力を入れて行いました。私たちのマネージャーとしてインフルエンサーの松井さんがSNSを使って、イベントを宣伝してくださいました。また、オリエンテーション合宿を通して、地域の人が立山山麓の良さに気づいていないのではないかと感じたので、実践活動の当日にはお店の前に立ち、通る人にまんだら食堂でのイベントをアピールしました。実際に私たちの声掛けでイベントに来てくださったお客さんもいらっやして、とても嬉しかったです。また、若い人が魅力を知るきっかけになってほしいと考え、国際高校、氷見高校それぞれでチラシの配布をしたり、地元の富山市立小見小学校で宣伝活動を行ったりしました。宣伝活動の中で地域の方とコミュニケーションを図ることができ、新たに気づくことが多くありました。実践活動の当日には、小学校での宣伝を聞いて来てくださった方とたくさん再会することができました。宣伝活動はとても大変でしたが、工夫した宣伝活動が出来たこと、私たちの企画したイベントに興味を持ち、応えてくれる方がいることに喜びを感じました。



活動で得た学び・気づき

たくさんのことを学びましたが、特に印象的だったことが3つあります。

1つ目は、自分が学んだ立山山麓の良さを人に伝える大切さです。多くの人に立山山麓の良さを知ってもらうためには、まず、自分が立山山麓について知ることが必要です。オリエンテーション合宿で、スキー場の再興に尽力された方に聞いた話によると、立山山麓では過疎化が進んでいて、長年愛されていたスキー場も経営が難しくなり、閉鎖の手前まで追い込まれたそうです。私はこの話を聞き、とても驚きました。他と比べて、温かい雰囲気そのスキー場は、県内でも人気のスキー場だったため、私も幼い頃から何度も行った馴染みのある場所だったからです。私は近くに住んでいながら、その事実を全く知りませんでした。現在はクラウドファンディングでたくさんの方の支援があり、閉鎖の危機を免れたそうです。私は、地元の方たちの熱い思いと実行力に心が動かされました。そして、私も地域再生のために何かできることはないかと考えました。その答えは「血の池ガールズ」です。高校生らしいアイデアを生かして宣伝し、多くの人に来店してもらえました。高校生の私、そして手伝ってくれた地元の小学生も、地域再生の大きな力を持っていると気付きました。

2つ目は、考えたことを実行することの大切さです。何かできることはないか、と考えるだけでは立山山麓の良さを多くの人に知ってもらうことはできません。私は今まで、1つの目標に向かって努力したり、考えたことをすぐに行動に移したりするような経験がありませんでした。たくさんの人に立山山麓の良さを知ってもらうためには、きっかけ作りが必要です。実際に私もこのオリエンテーション合宿に参加したからこそ気づけた良さが沢山あります。立山山麓には豊かな自然をはじめ、おいしい食べ物や素敵なエキスパートの方々があります。だからこそ、その良さが知られていないのは勿体ないです。立山山麓のよさを伝えようと実際に活動を始めると、思い通りにいかないことがとても多かったです。しかし、その度に、まんだら食堂の佐伯照代さんや協力者の方々が、何度も助言して下さったり、温かい言葉をかけて下さったりしました。このような経験から、イベントを行って本当に良かったと思えました。活動を終えたときの達成感は忘れられないものとなりました。

3つ目は、人と関わることの楽しさです。積極的に人と話したり、多くの人と関わったりする事が苦手な私にとって、このオリエンテーション合宿への参加はとても勇気のいるものでした。しかし、立山山麓で地元を支えるために行動しているたくさんの方々の尊敬できる方々に出会い、人と触れ合うことで学べないことが沢山あると気が付きました。実践活動でも、協力者の方やお客さんの優しい言葉と心遣いに温かい気持ちになりました。この体験は私の将来の大きな支えになるだろうと強く感じました。

今後の展望・新たな取組み

私は人と関わるのが苦手で、積極的にコミュニケーションをとろうとしたのも、オリエンテーション合宿が初めての経験でした。そんな私を今回の活動でふれ合った立山山麓の方々には優しく包み込んで下さり、素敵な方がたくさんいらっしゃるなと感じました。きっと、私が気づいていないだけで、富山に限らず世の中には素敵な方がたくさんいるのだと思います。だから私は、もっとそんな素敵な方に出会い、地域全体をみんなの優しさでつみ込むことができるように、人とのコミュニケーションを大切にしたいです。

今回の活動を通して、たくさんの方を学んだと同時に私も立山山麓の魅力を知ることができました。そして、その良さを知らない人は勿体ないと強く感じました。実際に私は富山県に住んでいて、「富山には何も無い」「早く富山を出たい」という言葉をよく耳にします。しかし、このオリエンテーション合宿を通して、今まで全く知らなかった魅力に何度も気が付かされました。富山県にはたくさんの方がいます。私はそんな魅力に溢れた富山が大好きです。私たち高校生一人一人の力は小さいですが、頑張って活動した結果、宣伝に真剣に耳を傾けて下さったり、私たちの活動に興味を持ちイベントに足を運んで下さったりする方もおられて、高校生である私たちが魅力を発信することに意味があるのだと感じました。だから、まず、住んでいる人に地元富山の良さを知ってもらえるよう、今後も活動を続けたいと考えました。立山山麓で学んだことを活かし、富山県全体をより良いものにしていくことが、これからの私たちの課題だと思います。「血の池ガールズ」というイベントのある名前を大切にしながら、私たちが立山山麓を発信源として富山県内の各地をつなぎ、融合させ、富山全体を盛り上げていきたいです。

私は今、高校で「持続可能なまちづくりのために、若い世代の私たちに何ができるのか」というテーマで探究活動を行っています。今まで「持続可能なまち」と聞いても漠然としたイメージしか持たず、探究活動にも苦戦していました。しかし、今回の活動を通して私たちの住むまちをさらに良いものにするためには何をすべきなのか、自分は何を学ばなければならないかが明確に見えてきました。私の考える「持続可能なまち」は住み続けられる町です。それは、都市や交通が発達しているだけではなく、人と人が繋がり、住む人がずっとこの町で暮らしていきたいと感じられるまちです。そのためには、年配の方からのバトンを受け継ぐ人が必要です。私たち高校生が起こす小さな行動も「持続可能なまち」の実現に繋がるのではないかと思います。私は、これからこのオリエンテーション合宿や実践活動を通して学んだことを生かし、まちの魅力を発信し続けます。

1. 地域探究アワードエントリー情報

エントリー希望	有	エントリー単位	グループ	ブロック	中部
グループメンバー	氏名①	宇波 春咲		氏名③	高崎 心優
	氏名②	道淵 由真		氏名④	白石 心菜

2. オリエンテーション合宿及び実践活動の基本情報

合宿実施先	国立立山青少年自然の家		修了日	2022/8/1	カリキュラムのタイプ	B
フィールドワークの内容						
実践活動期間	2022/10/13 ~ 2022/11/3					
活動のタイプ	新たな活動					
協力者	主な協力者			協力内容		
	所属	まんだら食堂		まんだら食堂でのイベント開催、アドバイス		
	氏名	佐伯 照代				
	所属	あわすのスキー場 支配人		SNSでの宣伝 イベントのアドバイス		
	氏名	松井 一洋				
	所属	富山市立小見小学校		イベントの宣伝の協力		
氏名	谷岡 一直					
協力者総数	4名					

3. 実践活動の記録

(1)総活動日数 全7日

事前:準備・打合せ	5日	本番:メインの活動	1日	事後:ふりかえり・報告	1日
-----------	----	-----------	----	-------------	----

(2)活動成果の発信等

媒体	方法	回数	概要・備考
新聞	取材された	1回	北日本新聞にて掲載

(3)主な活動記録

活動日時	区分	活動場所	活動内容
10/13 ~ 10/13	①事前学習・打合せ等	国際大学付属高校	新メニューの開発
10/17 ~ 10/17	①事前学習・打合せ等	国際大学付属高校	まんだら食堂 佐伯照代さんと電話で打ち合わせ
10/28 ~ 10/28	①事前学習・打合せ等	国際大学付属高校	まんだら食堂 佐伯照代さんと電話で打ち合わせ
10/29 ~ 10/29	①事前学習・打合せ等	小見小学校、まんだら食堂	イベントの宣伝、イベント当日の打ち合わせ
11/3 ~ 11/3	②実践活動本番	まんだら食堂	実践活動

立山山麓の魅力を伝えたい

～鍵は内なる広報・見えざる壁の破壊～



まんだら食堂感謝祭

新メニュー！！

- ・血の池おじや
- ・地獄カステラ

など、他にも新メニューあります！

※なお、血の池ラーメンの辛さ調整可能。

大人も子供も大歓迎！！

日時 11月3日(木・祝) 11時～15時
場所 まんだら食堂
料金 入場無料

血の池ガールズ参上！

氷見高校2名、富山国際大学付属
高校2名が地域探究プログラムの活
動の一環として、まんだら食堂で活
動します！名付けて血の池ガール
ズ！

なんと！新メニューも？！

血の池ガールズ考案した新メニュー
がついに解禁！メニューは当日のお楽
しみに。定番の血の池ラーメンもあり
ます！

他にも、SDGs作戦！赤御膳とお重のクラフト体験も行います！

講師：照代さん

少しでも興味がある方ぜひご来店ください！！

白石 心菜(しろいし ここな)
富山国際大学付属高等学校 2年

立山山麓の魅力を伝えたい

～鍵は内なる広報・見えざる壁の破壊～

白石 心菜



活動概要

活動の内容

11月3日にまんだら食堂で歴史と食の融合に焦点を当てまんだら食堂感謝祭を実施しました。

対象はまんだら食堂に来られたお客さんです。

主にしたことは、新メニューの提案と接客、SDGsを意識して作った赤御前とお重のクラフトブース、お客さんと触れ合う場、アンケートです。

新メニューの提案は元々まんだら食堂で提供されている血の池ラーメンにご飯をつけておじやにするもの、天国ラーメンです。また、私たちが立山曼荼羅の地獄にある血の池にかけて血の池ガールズを結成してそのイベントを盛り上げました。

活動の特徴(新規性・発展性)

この活動の特徴は、立山曼荼羅の歴史を意識してイベントを行ったことです。

合宿中に訪れた立山博物館やまんだら食堂で立山曼荼羅の歴史を学びこの歴史からもっと魅力を伝えることができるのではないかと考えました。そして食から魅力が伝わりやすいと考え歴史と食を融合しました。そこで新メニューを考えたり血の池ガールズを結成したりして食と歴史をテーマにしてイベントを企画しました。

活動の成果

この活動の成果は立山山麓を盛り上げることができたことです。イベントを行うことで少し寄って行かれた方も、イベントを目的に来ていただいた方にも楽しんでいただくことができ、開店から閉店まで途切れることなくお客さんが訪れて、新規来店客が5割を超えました。また、元々あまり関わりが無かった立山山麓地域の芦峯寺と小見地区の融合が進み、魅力を内から外へ発信していくものが整ったことです。

課題の設定と意図

立山山麓地域の魅力を地元の人たち自身も知らないのではないか、また県内外に魅力が伝わっていないのではないかというところから立山山麓地域の魅力をたくさんの人に伝えようという課題を取り上げました。

今回の合宿中に立山山麓地域のいろんな方々に会ったり、たくさんの施設に行ったりして魅力がたくさんあるなと感じることができました。しかしその魅力に私たち自身もこの立山山麓で体験活動をするまで知りませんでしたし、この地域に来なかつたら知ることがなかったのではないかと思います。また合宿が終わって家族や友人に話してもそんな施設があったんだ知らなかったという声が多くありました。

この立山山麓地域の魅力を知らないのは勿体無い、もっと盛り上げたいという思いを強く持ち私たちはこのような課題を設定して魅力をたくさんの人に知ってもらいこの地域を盛り上げることを目指して活動したいと思い、この課題を立てました。

課題解決のための仮説と計画

立山山麓の魅力をたくさんの人に伝えようという課題に対して県内外人も地元の人たち自身も魅力に気づいていないのではないかという仮説を立てました。合宿を通して地元の方々自身もそんな場所があったんだというふう気づいている場面があり、もしかしたら地元の人たちも気づいていないのではないのかと思ったことがきっかけです。また、立山山麓地域の良さを知り合いに伝えても知らなかったという声が多く実際に魅力は伝わっておらず立山山麓の良さを知っている人はいないと考えました。

その課題を達成するためにどんなふうにしたら魅力が伝わるのかを考え計画を立てました。1つ目は小見小学校や小見地区での広報活動を実施すること。2つ目はあわすのスキー場の支配人と協力してインフルエンサーから芦峯寺の魅力を発信をすること。3つ目はまんだら食堂でのイベントを開催すること。4つ目は自分たちの力でできる広報活動です。

グループで担当を決めてお客さんがより楽しんでもらえるように、魅力を伝えられるように何ができるのかを考えて計画を立てました。そして計画を立てることでもっとこうしたいのではないかとより良い案がたくさん出てくるようになりそこから工夫をすることができました。



活動で工夫できたこと

実践活動でどうしたらお客さんが喜びか、イベントを盛り上げることができるかを考えて工夫しました。まず、オリエンテーション合宿の時に学んだ、地獄世界や、立山信仰について知ってもらうために、「血の池ガールズ」や「天国ラーメン」といった立山曼荼の世界観から、お客さんの目に止まりやすく、いつまでも印象に残る名称を多く取り入れました。

次に、イベントの中でお客さんと触れ合い、会話できるブースを設定しました。直接お客さんとお話することで、私たちが実際に体験して感じた立山山麓の良さをより魅力的に伝えることができると感じたからです。実際に直接お話しすると、心の距離が近くなり、会話ははずみ、私も知らないうちに笑顔になりました。そのとき初めてまんだら食堂の佐伯照代さんがいつも笑顔でお局さんと接している理由が分かりました。

そして、あわすのスキー場支配人・松井さんが「会社を運営したり、イベントを実行したりしていく上で、宣伝が最も大切だ」と教えてくださったことを生かし、様々な方法で今回のイベントを宣伝しました。松井さんはスキー場の情報を毎日発信しておられる、地域のインフルエンサーです。血の池ガールズのマネージャーに就任していただき、今回のイベントについてSNSで宣伝してもらいました。また、イベント前には、私たちが通学する高校でのチラシ配布活動、地元の方々が集う富山市立小見小学校の学習発表会での宣伝活動を行いました。イベント当日には、まんだら食堂前の道路に出て手を大きく振り、チラシを高く掲げ、心を込めて宣伝しました。SNSだけでなく、実際に地元の方やお客さんと深く関わることで、私たちの頑張る気持ちが伝わったと思います。そのおかげもあり、「学習発表会の宣伝で気になったから来たよ」「道路の宣伝を見たから来たよ」という声をたくさん頂き、工夫して宣伝活動を実施して良かったなと感じました。



活動で得た学び・気づき

今回の活動を通して学んだことは大きく3つあります。

1つ目は実際に行動に移すことの大切さです。今まで私は何かをしてみたいと思うことがあっても、なかなか行動に移すことができませんでした。しかしオリエンテーション合宿で出会った講師講師の方々が、声にだすだけでなく実際に行動に移して成功しているのを知りました。「誰かの役に立つために、この地域が少しでも良くなるために」、そんな思いで活動されていることを知り、すごく素敵だと感じました。私も地域の役に立つことを実践したいと思いました。しかし、実際にやってみると、自分たちが思っていること、想像していることを、計画通りに実践することは、本当に難しく大変なことでした。しかし仲間と知恵を出し合ったり、協力者の方々に教えて頂いたり、触れ合った地域の方々やお客さんに励まされていたり多くの人と繋がることで困難なことも実現できると強く感じました。活動を終えた時の達成感は、今までに感じたことがないくらい大きなものでした。

2つ目はお客さんのことを考え、常に工夫し続ける大切さです。オリエンテーション合宿の講師の方々の仕事ぶりを見てると、伝統を守るために、変化を楽しんでいるように感じました。毎日SNSで情報を発信をしたり、新たなイベントを企画したり、伝統や歴史を守り伝えていくために現代の人に合わせた展示をしたりなど、多くの工夫をしていました。私たちがイベントを企画するとき、どうしたら喜んでもらえるのか、どうしたら魅力を知ってもらえるのかと考え意見を出し合って考え、様々な工夫をしました。その工夫を考え出すことは難しかったけれど、自分はどんなイベントがあったら行くのか、どんな工夫があれば嬉しいか、「自分だったら」と考えるとたくさんの工夫が出てきました。自分の経験を活かして工夫するためには、自分自身が様々なことにチャレンジしより豊かな人生経験を積むことが大切だと気づきました。

3つ目は、地域が融合することの大切さです。今回は立山山麓を代表する2地域の融合を目指して活動しました。「地元こんないい場所があるのには知らなかった」と、地元愛を新たに感じたという声を多く聞きました。地区住民が融合することで、人が集まり、さらに大きな勢いで地元愛を語るようになると思います。その愛言葉が、より多くの人を惹きつけると感じました。昔から変わらない大自然や伝統、新しく生み出される魅力に、実際に居住する人が生み出す愛が溢れる想いが加わることで「また立山山麓に行きたい」と訪れた人が思う理想的なサイクルが出来上がるのではないかと考えました。今回のような地域融合を少しずつ拡大することで、互いのよさを活かしながら地域がより良く発展していくと感じました。

今後の展望・新たな取組み

今回の体験で多くのことを学びました。行動に移すことの大切さ大変さ、工夫することの難しさ、そして地域が融合することで魅力が増大するという事です。

私自身が立山山麓で実際に体験してみるまでに魅力が知らなかったように、いろんな地域にもっと発信していくべき魅力があるのではないかと思います。オリエンテーション合宿中を通して「こんなに素敵なお客さんに、なぜ今まで知らなかったのか。もっと早く知りたかった。いろんな人に早く伝えたい。」と私は感じました。いろいろな地区を訪れ、私のように感じる人はたくさんいると思います。魅力を伝えるべき、もっと有名になる場所がたくさんあると思います。その魅力を見つけ、立山山麓と繋ぎ、地区融合を拡大し、富山県をより素敵なお客さんにすることが、これから私たちができることだと思います。「自分がいいなと思った地域や施設を身近な人に伝えたり、SNSで発信したりして地域融合を拡大させる」それがまず初めにできることではないかと思っています。

少子高齢化が社会全体で大きな問題です。少子高齢化進む過疎地域でも、若い世代に魅力を発信することで、魅力を知った人が移住をしてくるかもしれません。そうなればその地域はもっと盛り上がりやすくなります。小さな力しか持たない高校生の私ですが、ただ魅力を発信し続けることで、その地域が盛り上がり発展する可能性があります。小さなことの積み重ねが大きな結果を生み、高校生の私でも社会に貢献できると思います。また、今回立山山麓の方々と関わって心の温かさや仲の良さを感じてすごく素敵だと思いました。改めて思うと私は自分の住んでいる地域の方とあまり関わっていないし、自分の地域の人たちも挨拶を交わすくらいで仲が良いとはいえないなと思いました。社会のほとんどがそうではないかと思っています。やはりその地域、社会を盛り上げるイベントや住民が関わることができる場が必要ではないかと思っています。

私は将来、小学校の教員になりたいです。実際に教員になったときに、その学校がある地域と密接に関わるような活動を行う際には、今回の学びを生かしたいです。また、子供と一緒に地区のいいところを見つけたり、子供たちが積極的に地域の方々と関わる活動を工夫したりすることで、子供たちが自分の地域のことを深く知り、地域の良さや地域の方々の温かさや地域を支える方々に感謝の本心を持つことができるようにしたいです。このような活動を展開することで、若い世代から親世代、祖父母世代、いろんな世代がその地域の良さを共通認識でき、いろんな視点からより良い情報を発信していけると思います。

私は身近なところからたくさんの魅力を見つけ、それを伝えます。そしてたくさんの人と関わり、会話し、その地域をもっと盛り上げます。このような私なりの実践を通し、私の思いがいろんな人に伝わり社会全体が温かく、盛り上がって欲しいです。

1. 地域探究アワードエントリー情報

エントリー希望	有	エントリー単位	グループ	ブロック	中部
グループメンバー	氏名①	白石心菜		氏名③	宇波春咲
	氏名②	高崎心優		氏名④	道淵由真

2. オリエンテーション合宿及び実践活動の基本情報

合宿実施先	国立立山青少年自然の家		修了日	2022/8/1	カリキュラムのタイプ	
フィールドワークの内容						
実践活動期間	2022/10/13 ~ 2022/11/3					
活動のタイプ	新たな活動					
協力者	主な協力者			協力内容		
	所属	まんだら食堂		まんだら食堂でのイベント開催 アドバイス		
	氏名	佐伯 照代				
	所属	あわすのスキー場 支配人		SNSでの宣伝 イベントへのアドバイス		
	氏名	松井 一洋				
	所属	富山市立小見小学校校長		宣伝活動に協力		
氏名	谷岡一直					
協力者総数	4名					

3. 実践活動の記録

(1)総活動日数 全7日

事前:準備・打合せ	5日	本番:メインの活動	1日	事後:ふりかえり・報告	1日
-----------	----	-----------	----	-------------	----

(2)活動成果の発信等

媒体	方法	回数	概要・備考
新聞	取材された	1回	北日本新聞にて掲載

(3)主な活動記録

活動日時	区分	活動場所	活動内容
10/13 ~ 10/13	①事前学習・打合せ等	国際大学附属高校	新メニューの開発
10/17	①事前学習・打合せ等	国際大学附属高校	まんだら食堂 佐伯照代さんと電話で打ち合わせ
10/28	①事前学習・打合せ等	国際大学附属高校	まんだら食堂 佐伯照代さんと電話で打ち合わせアンケートの作成
10/29	①事前学習・打合せ等	小見小学校、まんだら食堂	イベントの宣伝イベント当日の打ち合わせ
11/3	②実践活動本番	まんだら食堂	実践活動